

平成 30 年度 第 3 学期始業式  
「校長より全校生徒へ」



25日間の冬休みが終了し、今日から3学期が始まりました。みんなにとって、どんな冬休みだったでしょうか。冬休みに入る前、終業式で私からみなさんに宿題を出しました。登校時、さっそく校長室前に設置したボックスに提出をしてくれた人が沢山いましたので、みんなが書いてくれた内容を見るのがとても楽しみです。

ここで、なぜこの宿題を出したのか、その理由を話したいと思います。

今、国内外においてスポーツをはじめとする様々な分野で、若い世代特にみんなとほぼ同年代の10代の活躍がめまぐるしいです。例えば、通算100勝の最年少記録を更新した将棋の藤井颯太七段は16歳、卓球のワールドツアーグランドファイナル男子Sで最年少優勝した張本智和選手は15歳、アジア水泳競技大会で日本選手初6冠達成した池江璃花子選手は18歳、この他にも沢山の若者たちが素晴らしい活躍をしています。新聞や雑誌いろいろな報道番組を見ていると、今活躍する若者たちに共通することがあります。それは、幼少期の早い時期に自分の将来の目標(夢)を明確に設定し、確固たる決意・信念のもと、その姿をよりハッキリと鮮明に描いているということです。

12月に全校生徒を対象に行った「後期生徒アンケートの『将来の夢』』についての設問では、半数の人が持っている、1/4の人がだいたい持っていると答えています。つまり、一中生は、全校生徒136名中75%の102人は何らかのかたちで「夢」をもっています。では、その夢は一点の曇りもなく心の底から願う夢でしょうか。誰からも賞賛され応援される美しいものでしょうか。夢を持っていると言っても、持ち方やその思いの強さは人それぞれです。でも、そこに大きなポイントがあります。人によっては数年先までは考えることができなくても、365日1年後の姿は、しっかりと描いてください。その姿が鮮やかでTVの画面で見るとかのようにイメージできれば、叶えるまでの道のりは険しく厳しいものでも必ずや笑顔と希望を持って乗り越えられるはずです。その結果、必ずや達成できるはずです。一年後、一人でも多くの中生が願いを叶え、更なる目標に向かって歩む姿を見られることを私自身の目標として、この課題をみんなに出しました。

1・2年生は47日間、3年生は卒業までの42日間しかないこの3学期を、一日たりとも無駄にすることなく、一年後の自分に向かって過ごしてください。

